

学区の三世代の住民と一緒に楽しむことができるイベントの開催

【井田学区】井田学区ふれあいコンサート

《学区データ》

学区名：井田学区

世帯数：6,509世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：井田学区パパさんコーラス隊

事業開始年度：平成20年度



◆取組のきっかけと経緯

井田学区は、平成20年度から2年間、学校・地域と連携した家庭教育のための体制づくりを行う家庭教育推進モデル地区に指定され、事業を実施する助成金が交付されていました。実施する事業を学区社会教育委員会で検討したところ、学区の三世代の住民と一緒に楽しむことができるイベントとして、岡崎市シビックセンターコンサートホール・コロネットで行うこととなりました。

◆事業内容

ふれあいコンサートは、家庭教育推進モデル事業として平成20年度から例年2月の休日に開催しており、約300名が来場しています。

第1回目は、井田学区家庭教育推進協議会が主催し、井田学区総代会の後援により開催しました。出演団体は、井田小学校金管バンド部、井田学区パパさんコーラス隊、井田小PTA & OGコーラス、老人クラブ「童謡を歌う会」で、学区の三世代の住民が同じ舞台に立ちました。翌年も一部出演団体が変わりましたが、同規模で開催しました。しかし、もともとふれあいコンサートを開催するきっかけとなった家庭教育推進地区モデル事業が平成21年度で終了したこともあり、3回目以降の開催については検討をする必要がありました。関係者による検討の結果、折角2年続けて開催し地域にふれあいコンサートが根付きつつあるので、パパさんコーラス隊が会費から財源を捻出し、それを財源に3回目以降も開催することとなりました。



3回目以降も、出演団体は、井田小学校児童とパパさんコーラス隊を中心に、学区で活動している音楽に興じている団体なども巻き込みながら、内容を見直しながら開催し、平成25年度で6回目の開催となりました。

◆成果

ふれあいコンサートを開始して6年目を迎えましたが、学区の住民に定着してきました。2月になると、学区の住民から「もうふれあいコンサートの時期になったね」という声も聞くようになりました。初めは、開催自体難しいという反対の声も多くあり、ここまで続けることができるとは思っていませんでしたが、みんなで協力すればイベントを作りあげられることが分かり、結果的に学区にとって重要なイベントになりました。

また、小学生などの出演団体にとっては、日頃の練習の成果を披露するという点でも非常に重要な意味を持っており、普段はなかなか使用することのないコロナネットを使用していることも練習のモチベーションを高めることにつながっています。

◆今後の展望・課題

ふれあいコンサートを長年継続して開催していくためには、学区社会教育委員会が主体となり学区の年間行事に入れて行っていく必要があると感じており、今後どのように続けていくのかが一番の課題となっています。

また、ふれあいコンサートは音楽のイベントなので、音響や全体の構成など音楽に詳しい専門的なスタッフが必要です。専門知識を持った方にイベントに協力していただくことも、今後継続していくためには考えなければならない課題です。

こんな工夫をしています！

●学区の住民に楽しんでもらえる内

容を考え、コンサートを開催

→ コンサートを学区のイベントとして定着させるため、学区の住民に楽しんでもらえる内容となるように工夫をしています。

チラシや整理券、プログラムを手作りで作成、配布しています。また、当日のコンサートを撮影し、DVDとして出演者には配布をしています。さらに、来場者も楽しめるように、クイズを行ったり、最後に全員合唱を取り入れるなど、来場者もコンサートに参加できるように工夫をしています。

また、井田小学校のゆるキャラである「井田ッキー」もイベントに参加し、イベントを盛り上げると共に、より学区にこだわったイベントとなるようにしています。



井田ッキー

注目ポイント！

●学区の三世代の住民が楽しめるイ

ベントとなり、学区の風物詩に

→ ふれあいコンサートを開催することで、普段は接点を持つことのない学区の住民同士が関わりを持つことができるため、学区の住民のつながりを強化することができ、回を重ねるごとに、徐々に出演者も和気あいあいとした雰囲気となっていきました。また、ふれあいコンサートを通じて、小学校と学区の住民との関係も以前より近くなりました。

もともとのこだわりであった学区の三世代の住民と一緒に楽しむことができるコンサートとなったため、学区の住民にとっても1年の楽しみが増え、今ではふれあいコンサートは、井田学区に欠かせない風物詩となりました。